

女性活躍の状況紹介

東京工芸大で積算授業

BI ME O
積算協 会ら

BI ME O教育普及機構（B I ME O、佐野吉彦理事長）は6月24日、東京工芸大学厚木キャンパス（神奈川県厚木市）で建築積算の授業を行った。写真。工学部工

にAI、DXといった未来を感じる。こうした流れを産官学が連携して授業で伝えることは非常に重要だ」と企画の意義を説いた。

学科建築コースの2年生約100人が参加。日本建築積算協会（浦江真人会長）女性活躍推進委員会「積女ASSAL」委員長の前田伸子専務理事らが建築積算の仕事などについて講演したほか、協栄産業（東京都品川区、平澤潤社長）の積算ソフトを使い実践的な演習を行った。

前田氏は積算協会の事業内容や積算資格などを説明するとともに、女性積算士の交流やスキルアップ、キャリア形成を支援する積女ASSALを紹介。「会員のうち女性の割合は2015年に3%だったが、現在

は10%で推移し、30〜60代と幅広い。積算士受験者の3割が女性だ。11、12月に企画するセミナーに参加してほしい」と呼び掛けた。

積女ASSALメンバーの天野しのぶ氏（久米設計）は、積算の仕事を一作りに例え「建物のレシピは材料の種類と数量と単価を掛けて金額にする」などと説明。数量や単価の感覚を持ってコストをマネジメントすることの重要性を伝えた。

同大学講師で同機構理事や同協会副会長などを務める森谷晴彦氏は「建築積算という大事な仕事について学び、積算ソフトで実務を体験する。積算とBI ME Oの関係を知り、力試しとしてBI ME Oの資格に挑む。さら

の交流やスキルアップ、キャリア形成を支援する積女ASSALを紹介。「会員のうち女性の割合は2015年に3%だったが、現在

BI ME Oの導入支援や教育研究などに携わる横関浩氏（フローワークス代表取締役兼最高経営責任者「CEO」）が「建築は図面ではなく数字で決まる」と題して講演。続いてコンピュー



タ教育振興協会（ACSP）の担当者がBI ME O資格などを紹介した。協栄産業の担当者が積算ソフトとBI ME Oの関係を説明。同社が手掛ける建築積算システム「FKS」を使い操作演習などを行った。

